

報 雜

◎人 事

岡山醫科大學助教授 北山加一郎
 本俸六級俸下賜 (五月三十一日)
 岡山醫科大學教授 稲田進
 陸軍高等官一等
 岡山醫科大學助教授 池上馨一
 勅任官ヲ以テ待遇セラル (六月十五日)
 岡山醫科大學教授 田中文男
 歐米各國へ出張ヲ命ス (六月二十一日)

○鈴木 稔君 既記の如く歐米各國へ出張を命ぜられたる岡山醫科大學教授鈴木稔君は本月16日當地を出立し翌17日神戸解纜の照國丸にて出發せられたり

○田中文男君 別項の如く歐米各國へ出張を命ぜられたる同君は本年9月西班牙國マドリットに於て開會の第2回國際耳鼻咽喉科學會に本邦耳鼻咽喉科學界を代表して出席せらるる筈にて來7月15日榛名丸にて神戸出帆の筈なり

○登中清喜君 も同耳鼻咽喉科學會に出席の爲め別項の田中教授と同船にて出發せらるる筈なり

○笠井經夫君 同上

○藤原寛治君 は豫て岡山醫科大學生化學教室に於て研究中なりしが今般神戸市縣立神戸病院に勤務せられたり

○御前慶造君 は豫て岡山醫科大學醫學化學教室及耳鼻咽喉科教室に於て研究中なりしが今般和歌山市茶屋野町に於て開業せられたり

○山本太郎君 は多年岡山醫科大學補内科教室に勤務し居られしが今般鳥取市川外大工町に於て開業せられたり

○後藤 勇君 は今般東京市同愛記念病院を辭し長野市權堂町に於て開業せられたり

○篠原雅吉君 逝く 君は明治45年渡米し目下ロスアンゼルス市に開業し居られしか去5月27日羅府日本人病院に於て遠逝せられたり寔に痛惜に堪へず謹みて茲に弔意を表す因に葬儀委員の名を以て其略歴を寄せられたるを以て下に掲載す

故篠原雅吉君略歴

故人は丸龜中學を経て、岡山醫學專門學校に入り、明治39年同校卒業、岡山市島村眼科病院に入り眼科研究、41年香川縣觀音寺町にて開業、45年研學の爲渡米。桑港に滞り、學僕をなす傍らスタンフォード醫科大學眼科教室に學ぶ、大正2年サクラメント市に2箇年開業、後當ロスアンゼルス市に轉じその間羅府日本人醫師會々長、羅府日本病院副社長に擧げらる。

1924年 フキラデルフキア 全米眼科學大會に出席。

1926年 メキシコ 市に開業を志し、同國重要都市を視察す。

1930年全米眼科學會主催のオーストリア、ウキンナ市に於ける講習會へ出席及び歐洲各國視察の爲め渡歐、其際特に眼科の世界的權威者 フックス 教授の指導を受く。

故人は文藝を愛し、和歌に長じ、晩年は インド の マハトマ、ガンジー の思想に私淑し、『町の哲人』の異名を受く。

長男哲雄は京都市松風名會社に勤務、次男研三は佛國 リール 市に故人の醫業を繼がんとして研學中なり。

1932年5月27日午前6時55分、日本人羅府病院にて逝去。遺言によりドクトル プラット により遺骸を

解剖に附せり。

病理解剖學的診斷は萎縮性肝硬變，慢性癒著膽囊炎，圓形胃潰瘍，心臟肥大，僧帽瓣膜症等殆ど臨牀的診斷と合致せり。

終りにのぞみ生きては同僚より畏敬せられ，死しては同僚に貴重なる教訓と知識とを遺されたる故人の靈に深甚なる敬意を表す。

●學位授與

岡村舜三君は豫て論文を岡山醫科大學に提出し學位を請求し居られしが本年5月3日の教授會を通過し6月10日醫學博士の學位を授與せられたり其主論文及び參考論文は左の如し

主論文

實驗的鬱積黃疸ニ於ケル糖類同化作用ニ就キテ

- 第1. 家兎ノ實驗的鬱積黃疸ニ於ケル葡萄糖ノ體內同化作用ニ就テ (岡山醫科大學歐文業府第2卷第2號ニ發表ス)

- 第2. 家兎ノ實驗的鬱積黃疸ニ於ケル六炭糖類ノ體內同化作用ニ就テ (岡山醫科大學歐文業府第2卷第4號ニ發表ス)

- 第3. 家兎ノ實驗的鬱積黃疸ニ於ケル六炭糖類ノ體內同化作用ニ及ボス膽汁酸ノ影響ニ就テ (岡山醫科大學歐文業府第2卷第4號ニ發表ス)

參考論文

1. 實驗的鬱積黃疸家兎ノ尿中「クレアチニン」排泄ニ就キテ (外字生化學雜誌第11卷第2號ニ發表ス)
2. 實驗血鬱積黃疸家兎ノ尿中ニ於ケル膽汁酸ニ就キテ (岡山醫科大學歐文業府第3卷第2號ニ發表ノ豫定)
3. 糖尿病患者ノ尿糖排泄ニ及ボス膽汁酸ノ影響ニ就キテ (本誌第44年第4號ニ發表セリ)
4. 家兎膽汁ノ膽汁酸ニ就キテ (岡村鼎二共著) (獨逸 ホツペザイラー 雜誌第188卷ニ發表セリ)